

天草市本庁舎設計業務公募型プロポーザル二次審査 審査員長講評

くまもとアートポリスの 25 周年の節目にふさわしい天草市本庁舎プロジェクトの第二次公開審査会場に県内外から多数の方々に来場くださり、長時間にわたって5組のプレゼンテーションと質疑応答を見守っていただいたことに深く感謝いたします。会場の皆様の熱い眼差しのお陰で、いつもより増して充実した公開審査となったと思っております。

今回の2次審査には、一般の方々にもわかりやすいようにと模型での説明も可能であると応募者の方々にお伝えしたところ、全員の方々が大きくて精密な模型を準備してくださいました。図面や文章だけでは伝わりにくい全体的なイメージ像が随分わかりやすく理解できるようになったように思います。

最終審査は、多岐の視点から議論をかさねました末に、審査員全員一致で、最優秀賞に「山本理顕設計工場」を選出することに決定いたしました。次点には、「梓設計 + S U E P .」を選ばせていただきました。

最優秀賞と優秀賞の2案は、たいへん僅差であり、提案の持つ可能性や問題点について委員相互の論議が落ち着くまで意見交換を尽くした結果であります。

最優秀賞の「山本理顕設計工場」の提案は、PC工法、中間層免震構造を採用し、自然エネルギーを利用した設備計画など総合的に練られたものであります。特に他と一線を画していたのは、将来にわたって市民と行政が協働しながらまちづくりに取り組むためのクラブハウス、アンテナショップや小さな会議スペースなどが随所にちりばめられており、多くの市町村が合併した「日本の宝島“天草”」にふさわしい新鮮な市庁舎の誕生を期待させることであります。審査員一同はこの具体性を高く評価いたしました。坂の広場の下に設けられた窓口業務が集約された大空間のフォーラム、坂を利用して直接アプローチできる議場、緑のテラスや打合せスペースの機能を持ち合せた環境ウォールなどの提案も評価されました。

クラブハウスやアンテナショップなどの運営をどのようにオーガナイズし、行政と連動していくかなどは新しい試みでありますので課題も多いとは思いますが、設計段階のワークショップなどを通じて是非、それ自体が観光資源となるように努力していただきたいものです。展望広場とエントランス広場を繋ぐ螺旋のスロープなどを含め、幾つかの点については再度検討する必要があるのではないかという意見も聞かれたことも申し添えておきたいと思っております。

次点となりました優秀賞の「梓設計 + S U E P .」の提案も、天草コミュニティ・マーケット(市場)のような公共空間を構築するという大変魅力的な提案であります。単なる行政のための市庁舎ではなく、市民参加型の新しい観光拠点としての提案は新

鮮でした。市民利用ができる透明性の高い議場の提案も好意的に受け止められました。既存の新庁舎活用の提案については、将来計画に関して審査員の意見が分かれるところではありましたが可能性の一つとして評価されました。

構造や設備計画を含めて完成度が高く最優秀案と甲乙つけがたい提案でありましたが、シンボルとなる中央に位置する半屋外的空間の天草コミュニティ・マーケットが常に賑わいを演出できるか、夏モードと冬モードの建具や設備の切替えなどに疑問を呈する意見が聞かれ、僅差がつく結果となりました。

佳作となりました3案もそれぞれ特徴ある提案がなされておりました。

「新居千秋都市建築設計」の提案は、敷地を東西に3分割し、中央にワンボックスの本庁舎を据えたコストコントロールに配慮したインパクトのある計画であります。庁舎中央の5層分の吹抜け空間が印象的でありましたが、その効果については賛否がわかれしました。提案のポイントであるウィンドー・ウェルや外壁を包むルーバーの効果、4つに分割された事務空間のフレキシビリティについて、もう少し明快な説明があってもよいのではないかという意見が聞かれしました。

「株式会社 都市環境建築設計所」の提案は、庁舎を南北に3分割し、中央に流れる水辺に挟まれたクロスの広場を設けることで天草らしさの演出が強調されていました。国道324号と小松原川を繋ぐ東西軸を強く意識していることは評価されましたが、窓口業務の円滑化に問題があるのではないかという懸念がありました。ダブルコアをもつ南北にスパンのとんだ構造形式とプリズムルーフと呼ばれている構造についての必然性に対する積極的な説明が欲しかったところです。職員の福利厚生などは細かな配慮がなされていたように思います。

「現代計画・野沢建築工房設計共同体」の提案は、緑の中に島々が浮かぶような6つの分棟形式の落ち着いた計画案でありました。東西軸の緑のひろばみち空間は開放的で心地よい広場となりそうですが、そのことでワンストップサービスの提供という点に問題が生じている結果となっているのではないかという意見がありました。また、分棟にして中庭を確保するとタワー式の駐車場や分散された駐車場にならざるを得ないことに対して不便さを感じました。議場の配置と開放性については好印象でありました。

今回も、応募者の皆さまから労力を惜しまない数多くの優れた提案をいただきました。どの提案も優劣つけがたい力作ばかりで、最優秀賞を決めなければならないというのは、コミッショナーとしては本当に辛いことです。くまもとアートポリスでは、今後も新たなプロジェクトを実施する際には、「自然に開き、人と和す」のテーマを忘れず、多くの皆さまに様々なかたちで参加していただけるような機会を設けて参りますので宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、大切なプロジェクトをアートポリスに参加して下さった安田天草市長をはじめとする天草市の関係者の皆さまに、建築に携わるものとして心から御礼を申し上げます。新しい本庁舎が世界に発信する天草のシンボルとなるように我々も可能な限りの協力をお約束したいと考えております。

くまもとアートポリスコミッショナー
伊東 豊雄